越前ミニ同期会報告書

奥山悦男

日時：２０１４年（平成２６年）３月１４日（金）～１７日（月）

参加者：１２名（括弧内は高校３年時のクラス）
川村仁子（A組）、佐久間憲子（A組）、林田重吉（A組）、堀田泉（A組）、榊原信行（B組）、馬場教子（G組）、和田ひとみ（G組）、小倉恵二（G組）、西田恵美子（H組）、衣笠幸夫（Ｉ組）、山越裕（Ｉ組）、奥山悦男（Ｉ組）
（関東から８人、関西・九州から３人、地元１人）

初めに

１４年前の２０００年（平成１２年）１１月。５０歳の時、当時私は仕事の関係で大阪に住んでいましたが、定年後に住む予定の福井県武生市（現・越前市）で１回目の越前ミニ同期会を企画しました。私を含めて５人参加されました。その中の３人は高校卒業以来３２年振りの再会でした。その時は私の家に泊まり、近所の温泉「しきぶ温泉」に浸かり、翌日越前海岸を廻り、越前がに料理を堪能した１泊２日の旅行でした。この時、参加された１人が言いました。「１０年後に２回目の越前ミニ同期会を開きませんか。」１０年後は私の定年退職年。翌年は越前市へ引越す等でバタバタし、準備に時間が掛かり、予定より４年遅れましたが、２回目の越前ミニ同期会をようやく開催することができました。

当初は、越前市を中心にして２泊３日の旅程を企画しましたが、参加予定者から、坂井市のおけら牧場と東尋坊へ行きたいとの希望がありましたので、旅程を変更し、ＪＲ芦原温泉駅に集合し、それらの場所を見てから、越前市内・越前海岸を廻るという旅程へ変更しました。

旅程

１４日（金）
たかせや（昼食）、越前漆器伝統産業会館、一乗谷・朝倉遺跡、永平寺、青山ハーブ、
鯖江３６連隊跡地（福井師範学校跡地）、しきぶ温泉（夕食）、奥山宅泊

１５日（土）
丸岡城、丸岡歴史民俗資料館、一筆啓上茶屋（昼食）、ナホトカ号漂着地、東尋坊、
カルナ（ジェラード店）、森田銀行本店、三国町散策、みくに龍翔館、武生パレスホテル泊

１６日（日）
越前市内早朝散策、越前和紙の里（紙の文化博物館、卯立の工芸館、パピルス館）、岡太神社、
山田兄弟製紙、ミツカワ、味真野小学校、毫摂寺、聴琴亭（昼食）、越前そばの里、
ちひろの生れた家記念館、タンス横町・三崎タンス店、奥山宅（休憩）、奥山が住む集落散策、
元遊郭の松並木、福井鉄道・北府駅、越前町・織田コミュニティセンター、越前海岸、
水仙群落、水仙荘泊

１７日（月）
越前岬灯台、水仙ランド（ナルシスの館、自然文学資料館）、呼鳥門、こばせ旅館、
越前がにミュージアム、海幸苑（越前がにフルコース）、北前船主の館、しおかぜライン、
中池見湿地、ＪＲ敦賀駅（解散）

詳細

３月１５日～１７日の２泊３日の予定でしたが、その前に「永平寺」と坂井市「丸岡城」へ行きたいという方が３人おられたので、１４日にオプションツアーを行いました。

１４日（金）

昼頃、ＪＲ武生駅に４人（Ａさん・Ｂさん・Ｃさん・奥山）集合。近くの食堂「たかせや」にて

越前おろしそばを食べました。私が知る越前市内のそば屋で、大根おろしの辛味が一番強く、私の一番好きなそば屋さんです。前回のミニ同期会でも、その食堂でおろしそばを食べました。２年半前に、稲葉正先生のお嬢様・島田つゆさんを招いた時も、この食堂で越前おろしそばを食べて頂きました。

私の車で、一路、「永平寺」へ。

途中、鯖江市の「越前漆器伝統産業会館」へ立ち寄り、総漆の山車を鑑賞しました。

その後「一乗谷・朝倉遺跡」を通り、車の中から遺跡の説明をしました。日本のポンペイと言われる広大な朝倉遺跡に興味をそそられたようでした。

「永平寺」ではみぞれが降っていました。少し寒かったけれど、情緒たっぷり。１時間半ほどゆっくり参拝しました。我々は真冬の服装なのに、修行僧は素足。その姿を見るだけで気持ちが引き締まります。私は永平寺へは何回も来ていますが、今回初めて「宝物館」へ入りました。そこに掲げられていた道元禅師の年譜を見て驚きました。あの難解な正法眼蔵を何と３１歳から書いていたのです。若い時から書いていたのですね。

私の家へ戻る途中、永平寺町の「青山ハーブ」へ立ち寄りました。日本で唯一のハーブメーカーです。

その後、鯖江市の陸軍３６連隊跡地へ。この地は戦後、福井師範学校になり、稲葉正先生が千葉高校へ赴任する前の昭和２３年～２６年まで教授をされていたところです。先生のお嬢様の島田つゆさんが生れた所であり、２年半前につゆさんを案内した所です。

夕方、越前市郊外の「しきぶ温泉」に入り、そこで夕食を食べました。この温泉は、２５年程前に、当時の竹下内閣によるふるさと創生事業で掘られた温泉です。“しきぶ”とは、越前市ゆかりの紫式部のことです。

その夜は、我家の薪ストーブを囲んで、富士山麓にお住まいのＢさんが世界遺産に登録された記念に持参した清酒「富士山」、ウィスキー「富士山麓」を飲みました。ついでに私が用意した地酒「梵（鯖江市）」、地焼酎「ほやって（勝山市）」、地ワイン（山ぶどうワイン、大野市・白山ワイナリー製）も飲みました。これらは、ミニ同期会夜の懇親会の席でずっと飲まれていました。

１５日（土）

我家で朝食を食べました。ご飯は、私が所属する営農組織が作った米です。福井の百姓の汗・涙・ビタミンＩ（愛）をたっぷり含んだご飯を食べて頂きました。他に、福井県産カレイの一夜干し・ハタハタも評判が良かったです。越前市は山に囲まれた盆地ですが、日本海が近くにあるので、新鮮な山の幸・海の幸が豊富です。

１時間のドライブ後、ＪＲ芦原温泉駅にて２人（Ｄさん・Ｅさん）をピックアップし、重要文化財「丸岡城」へ。小山の上に建つ天守閣しか残っていませんが、石瓦の重厚な天守閣です。天守閣から福井平野全体を見渡せました。

城内の丸岡歴史民俗資料館に面白い物が展示されていました。江戸時代の藩一覧表です。加賀藩・前田家１０２万石から１万石の小大名までの約３００藩とそれぞれの領主が明治にどの華族になったかの一覧表です。最高位は加賀藩・前田家の侯爵です。Ｃさん曰く「自分の先祖は出羽（羽前）長瀞藩・米津(ﾖﾈｷﾂﾞ)家１万１千石の家老をしていました。その藩の領主は明治に子爵になりました。」実は、越前市の領主は、福井・松平藩の筆頭家老（本多家・２万石）でした。江戸時代は大名扱いでしたが、領主でないので、明治になってから士族扱いでした（最終的に男爵となる）。現代風に言うと、大企業の役員よりも、中小企業の社長の方がステータスが高いということでしょうか。

城内の一筆啓上茶屋で昼食。一筆啓上とは、徳川家康の家来・本多重次が陣中から妻に宛てた短い手紙「一筆啓上火の用心お仙泣かすな馬肥やせ」が由来です。お仙とは後の丸岡城主・本多成重（幼名：仙千代）のことです。旧・丸岡町は、「日本一短い手紙一筆啓上賞」を町興しのキーワードにしていました。その茶屋には、一筆啓上賞で受賞した作品をまとめた本が積まれています。

食後、近くの称念寺へ。境内に南北朝の武士「新田義貞」の墓があります。近くで戦死したの

です。
　再び、ＪＲ芦原温泉駅へ。そこで４人（Ｆさん～Ｉさん）をピックアップし、駅近くでレンタカーを借り、２台の車に１０人が分乗し、日本海に向けて出発しました。
　まず、「ナホトカ号漂着地」へ。そこは私の人生を変えるきっかけとなった場所です。１９９７年（平成９年）１月に、島根県隠岐島沖の日本海でロシアのタンカー「ナホトカ号」が分断し、船首部が福井県三国へ漂着し、積荷の重油が島根県から石川県の広い範囲にかけて漂着しました。当時私は大阪に住んでいましたが、故郷の福井県の海岸の重油汚染に居たたまれず、三国へ行き重油回収ボランティアに参加しました。北陸の冬の厳しい寒さの中で、報酬を求めず、黙々と重油回収をする多くの方々の姿を見て、私が会社人間・企業戦士から社会人間への転換の場になったところです。
　この日のメインである東尋坊へ。観光客でいっぱいの土産物屋街を通らず、遠回りして、荒磯遊歩道を歩き、いろんな文学碑と柱状節理の断崖絶壁を１時間程掛けてゆっくり歩きました。天気が良く、前日の雨のおかげで、空気が澄んでおり、日本海の水平線を見渡せました。
　その後、近くの「おけら牧場」へ行きました。その牧場は、Ｊさんの大学先輩の山崎一之さんが経営する牧場であり、Ｊさんは前日その牧場に泊まっていました。山崎一之さんは実は私の知り合いでもあります。久し振りの再会でした。山崎さんから牧場設立の苦労話、日本の農業の問題・将来性、三国の町興し等３０分以上延々と話してくれました。
　この後、Ｊさんがミニ同期会に加わり、山崎さんの息子さんが経営している三国町内のジェラード店「カルナ」へ行き、狭い店を１１人が占領して２～３種類のジェラードの味を楽しみました。
　カルナの道路の反対側の「森田銀行」本店跡へ入りました。江戸時代の北前船主「森田」氏が明治時代に金融業を始めました。本店跡は１９２０年（大正９年）に作られた重厚な建物で、国の有形登録文化財に指定されており、その建物自体が資料館になっています。
　古い町並みを散策後、みくに龍翔館へ行きました。１８７９年（明治１２年）にオランダ人の設計で作られた西洋館風の龍翔小学校の建物を、１９８１年（昭和５６年）に高台に復元された三国の歴史博物館です。時間が過ぎていたので入られませんでしたが、明治の初めに作られた西洋館の雰囲気と、北前船で潤おい西洋館の小学校を作った湊町の勢いを満喫しました。
　その後、宿泊場所の越前市へ向けて１時間半のドライブ。
途中で、休憩を兼ねて、３回車を停め、ワンポイント説明をしました。
①　大安禅寺前にて
　　大安禅寺は江戸時代の越前松平藩の菩提寺で、歴代藩主の大きな墓群がありますが、その近くに、幕末の歌人・国学者の橘曙覧(ﾀﾁﾊﾞﾅｱｹﾐ)の小さな墓があります。５２首の独楽吟が有名で、墓の側に彼の作品「楽しみは朝起きいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の歌が紹介されています。福井県では、毎年「楽しみは・・」で始まる短歌コンクール“平成独楽吟”を開催し、最高賞には「橘曙覧賞」が授与されます。今年の橘曙覧賞は約８０００首の中から、何とあわら市在住の小学２年の女の子が受賞しました。作品は「たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るとき」
②　旧・清水町（現・福井市）の農協マーケット前にて
　　３年Ａ組の竹内純生さんのお父様が、清水町で生まれ育ちました。
③　鯖江市北部の某コンビニ駐車場にて
　　近くで、近松門左衛門が２～１１歳まで過ごしました。鯖江市はメガネだけでなく、近松門左衛門を町興しのキーワードにしています。
　宿泊場所の武生パレスホテルに荷物を降ろし、近くのレストランで夕食。地元の食材を使った料理をたらふく食べました。越前市のＢ級グルメ“ボルガライス”を試食して頂きました。

１６日（日）
　朝６時頃、ホテルロビーに集合し、越前市内を１時間程散策しました。越前市は奈良時代から続く町で、古い神社仏閣・民家がたくさん残っています。

朝食はホテル最上階でバイキング料理。最上階は９階ですが、越前市では一番高い建物であり、市内を一望しながら、のんびり食事しました。

この日は、まず市東部の「越前和紙の里」へ。「紙の文化博物館」で１５００年の歴史といろんな紙製品を見学し、「卯立の工芸館」で実際の紙漉きを見学し、パピルス館で土産物を買いました。私自身久し振りに来て、楽しかったです。

紙祖「川上御前」を祀る「岡太(ｵｶﾓﾄ)神社」は、巨大な杉が多く生い茂っている広い境内です。気持ち良かったです。越前市内で私の一番好きな神社です。

ワンポイント説明

④ 山田兄弟製紙：日本で唯一、ヨシ繊維を漉きこんだヨシ紙製造メーカー

⑤ ミツカワ：従業員５０人足らずの小さな繊維メーカーですが、吸汗速乾素材等の特殊ニットを製造するメーカーで、２００９年（平成２１年）９月にＮＨＫ「ルソンの壷」で紹介されたことのある技術力を持っている会社です。テレビで紹介されたキーワードは「ゴルフの石川遼、卓球の福原愛が着ているスポーツウエアのメーカー」。おそらく多くのスポーツ選手が着ているでしょう。

⑥ 味真野小学校：グラウンドの真ん中に樹齢百年以上の１本のエゾヒガンザクラが立っています。もうすぐ桜の花で満開になるでしょう。Ｊさんが、テレビでこの小学校の桜を見たことがあると言われたので驚きました。

「毫摂寺(ｺﾞｳｼｮｳｼﾞ)」に入りました。浄土真宗には１０の宗派が有り、福井県には４つの宗派・本山があります。毫摂寺は出雲路派の総本山で、所属寺院が約６０あります。越前市内に浄土真宗の総本山の大きな寺があることや、出雲路派を初めて知った方が多かったようです。ちょうど婦人部の総会が終わり、アトラクションで毫摂寺合唱団による合唱が始まる直前でしたので、皆でその総会に参加し、２０分間の合唱を聞きました。冒頭で歌われた毫摂寺讃歌は与謝野晶子作詞です。今回のミニ同期会が無ければ、私はこの合唱団で歌う予定でした。

「聴琴亭」で越前おろしそばの昼食を食べました。江戸時代に鯖江藩領主・間部(ﾏﾅﾍﾞ)の殿様が立ち寄り、命名したと言われる古い家がそのまま店になっています。家自体は１９４８年（昭和２３年）の福井地震後に改築されましたが、門は江戸時代の建築物です。

デザートとして「越前そばの里」で“そばソフトクリーム”を食べました。

「ちひろの生れた家記念館」で１２番目の参加者Ｋさんと合流し、ようやく全員そろいました。

いわさきちひろの母親・岩崎文江が、大正時代に武生町立実科高等女学校（現・武生高校）の教師として武生町在住時にちひろを産んだのです。岩崎文江が下宿していた離れの部屋はありませんが、大家さんの本宅が記念館として一般公開されています。

近くの「タンス横町」へ行きました。ここで作られ売られている「越前箪笥」は、昨年（平成２５年）暮れに、経済産業大臣指定伝統的工芸品になりました。越前漆器・越前打刃物が使われているのが特徴です。越前市では越前打刃物・越前和紙に次いで３品目の指定です。横町の中で一番大きな一番古い幕末創業の「三崎タンス店」に入りました。お孫さんにと木製の機関車や玩具やバネで上下する木製の犬を買い求めた方がいました。

参加者１２人が全員そろいましたが、所用のあるＡさんと武生駅で別れ、築９０年の古民家の私の家で休み、近所を散策しました。この後やはり所用のあるＨさんと武生駅で別れたため、ミニ同期会後半は１０人で回ることになりました。

ワンポイント説明

⑦ 元遊郭の松並木：約２００ｍの広い道の真ん中を水路が流れ、その両側に松が植えられています。道の真ん中を松並木が通っている感じです。かつては、越前市の中心街を通っていた北国街道もこのような松並木道でしたが、昭和４０年代にモータリゼーション対策として、水路と松並木を潰し、道の両側に歩道が出来ました。安心して歩けるようになりましたが、味気ないと言うか、特色の無い町並みになりました。かろうじて、遊郭跡だけが、かつての町並みを彷彿させてくれます。

⑧ 福井鉄道・北府(ｷﾀｺﾞ)駅：駅前に広い駐車場があります。通勤者等が福鉄を利用する場合、家から車で来て、駅前駐車場に停め、電車で鯖江市・福井市方面へ行きます。駐車料は無料。“パ

ークアンドライド”と呼ばれる交通体系ですが、都会では駅前に広い駐車場を確保するのは不可能でしょう。地方だから出来るシステムですね。

尚、ここの木造駅舎は大正時代に出来、国の登録文化財に指定されています。かつて、樋口可南子と白犬が登場するソフトバンクのＣＭが、この駅で撮影されました。

駅舎の奥半分は、福井鉄道の歴史資料館になっています。

かつて、俵万智(ﾀﾜﾗﾏﾁ)さんが高校時代に福鉄に乗って越前武生駅→福井市・田原町(ﾀﾜﾗﾏﾁ)まで通学していました。彼女の著作「よつ葉のエッセイ」に通学時のエピソードが書かれており、駅舎内の歴史資料館にそのエピソードの文章が掲げられています。

⑨ 織田信長一族発祥の地「織田」: 旧織田町（現・越前町織田地区）の福鉄バスターミナル角に大きな「織田信長」像が立っています。織田地区は“織田信長”を町興しのキーワードにしています。尚、人物名は“オダ”。町名は“オタ”。読み方が違います。

⑩ Ｆさんのお母様の故郷「越前町・笈松地区」: 織田地区と越前海岸の間の山合いの地で、Ｆさんのお母様が生れ育ちました。Ｆさんは中学時代にその地へ行ったきり、５０年近くも行っていないとのことで、この地へ来るのを楽しみにしていました。

越前海岸を通り、岡へ登ると、スイセンの群落が広い範囲に残っていました。

岡の上の「水仙荘」に泊まりました。

夕食後の懇親会で、私にとって今回のミニ同期会で一番のサプライズに遭遇しました。Ｄさんが音楽クラブの歌の歌詞を持って来られていました。実は、Ｂさん・Ｇさんが歌詞を部分的に覚えておられたのを、他の音楽クラブのメンバーが思い出した断片をつなぎ合わせて、Ｄさんが完成させたのです。この時の宿泊者１０名中６人（Ｄさん～Ｇさん、Ｋさん、奥山）が音楽クラブ員であり、他に音楽クラブの歌を知っていたＢさんを加え、７人が高校卒業以来４６年振りに歌いました。歌っていて、実にすばらしい歌詞だなと胸躍らせながら歌いました。音楽クラブの歌を、今度の同期会で歌いたいですね。Ｄさんは「同期会で毎回歌いたいです。次は、学生歌、逍遥歌、応援歌なども準備したいと思います。」と言っておられました。

（注）渡辺（神保）公子さんと弟さん（数学者）のメールのやりとりから、川村さんに連絡があり、正しい歌詞がわかったとのことです。作詞作曲は音楽クラブの先輩ですが、お名前は不明。また歌詞は、記憶による採録ですので、原詞と字遣いが違う可能性があり、題名も、正しいかどうかは確信が持てないようです。音楽クラブ員にとっては大変元気の出る歌だったようです。

千葉高校音楽クラブの歌

１．希望に満ちた　我等の世代
天にとどけと　胸踊らせて
元気に歌おう　この楽しさを
いつまでも忘れずに
（リフレイン）
（男）わが青春の楽しさを
（女）わが青春の明るさを
（全）わが青春の愛しさを
声高らかに歌おうよ

２．道は一筋　未来へ続く
行けよ理想を求めて旅を
若き時こそ　鍛える時だ
いつまでも忘るなよ
（リフレイン）

３．歌を愛する　我等の仲間
　永遠（とわ）に忘れじ　葛城が丘
　嬉しい時も　悲しい時も
　共に笑み　共に泣く
（リフレイン）

１７日（月）

高台の水仙荘から降り、越前岬灯台や、ナルシスの館・自然文学資料館の中に入りました。霞んでいましたが、日本海の大海原とどこまでも続くスイセン群落を見ていると、心がすがすがしくなります。

「呼鳥門(ｺﾁｮｳﾓﾝ)」は自然が作った大きな岩のトンネルです。１４年前の越前ミニ同期会では、呼鳥門の下を国道が走っており、車で通り抜けましたが、今は新たにトンネルが出来、呼鳥門の下は通行禁止になっています。近くまで行きましたが、こんな危ないところをかつては平気で車が通っていたものだと感心します。

ワンポイント説明

⑪　こばせ旅館：越前海岸沿いの旅館。かつて作家の開高健が冬になるとこの旅館に泊まり、特注の蟹丼を食べていました。今では「開高丼」としてＰＲしています。

「越前がにミュージアム」に入りました。越前がにのことがすべてわかる博物館です。尚、インターネットや店によって、「越前かに」「越前カニ」「越前がに」「越前ガニ」「越前蟹」等いろんな表記があります。某店が取得した登録商標は「越前かに」です。福井県では県ブランドの統一名称として「越前がに」を採用しています。

ミュージアム隣の売店に売っている５匹１串１００円の小さなハタハタが評判でした。

「海幸苑」で越前がにフルコースを食べました。食べ始めると、誰もしゃべらず、ひたすら甲羅から身を取りだすのに必死です。皆さん幸せそうでした。１４年前の越前ミニ同期会でも、越前がにを食べたところです。ある方が聞かれました。「越前がにを食べさせる店がたくさんある中で、何故この店を選んだのですか？」私曰く「①女将さんがきれいで愛想がいい。②越前市からのアクセスがいい。③新鮮で旨い越前がにを安く安心して食べられるから。毎年１～２回食べに来ています。」

ワンポイント説明

⑫　北前船主の館：江戸時代に北前船の船主として栄えた右近家の館です。明治時代に東京で損害保険業を始められました。現在の日本火災海上保険の創始者です。右近家の大阪市此花区の別荘内の使用人用長屋で私が生れましたので、少し関係があります。

かつては、通行料の一番高かった有料道路「しおかぜライン」は一般道路になり、海の上を気持ち良く走れました。

⑬　中池見湿地：敦賀市内へ降りる手前、国道８号線沿いの周囲を山に囲まれた湿地。多くの希少生物が生息しています。２０１２年（平成２４年）７月にラムサール条約湿地に登録されました。

ＪＲ敦賀駅近くでレンタカーを返し、解散しました。

終わりに

ミニ同期会の前日・翌日は大雨でしたが、ミニ同期会中は天気に恵まれ、暖かな日々でした。参加者の中に車メーカーに勤められている方がおられ、その方のおかげでレンタカーを安く借りることが出来ました。ハプニングに遭遇しましたが、ほぼ予定通りの行程をこなすことが出来ました。ミニ同期会というよりはミニ修学旅行が無事終わりました。

Ｆさんはこの後、息子さんと出会い、翌日、越前町・笈松地区のお母様の故郷へ行かれました。Ｆさんは５０年振りに、息子さんは初めて行かれました。先祖代々の墓の横で、Ｆさんがお母様の遺影を掲げている写真が送られてきました。

Ｊさんは大学時代の先輩の牧場主と数十年振りに再会されました。

Ｇさんの従姉の息子さんがかつて福井市で勤めておられたとのこと。
福井県を本籍地・元本籍地とされている方が同期に何人かおられます。
関東では馴染みの薄い福井県ですが、以外に福井と関係ある方が多いようです。今回参加された方々が少しでも福井を好きになって頂き、この次は、ご家族・友人達と福井へ来て頂ければうれしいです。
５年後を目途に３回目の越前ミニ同期会を計画します。この次は、少し足を伸ばして、一乗谷・朝倉遺跡や恐竜博物館を対象にしたいです。その頃は７０歳前後。私は営農組織をリタイアして、第３の人生を送り始める頃です。春・秋は農繁期ですが、米作りの第一線から引いているはずなので、気候の良い春・秋の頃を選びましょう。それまで皆様お元気にお過ごしください。